

脈々 ^{スピリッツ} 高蔵 魂

(創立者 市邨芳樹のことば)

「自恣なるもの」

道を歩けば、眼にした方が気恥ずかしくなるような行動や服装をした人たちが闊歩している。バスや電車に乗っても、聞くに堪えないことばの暴力に遭遇する。

自分の服装、自分の言動だからといって、それらは自分一人のものではない。ひとに不愉快な思いをさせないための心遣いが「奥ゆかしさ」であり「たしなみ」である。

他人に見せんが為に容儀を整ふるに非ず、
我が身の ^{たしな}嗜みとして容儀を整ふべし。

(「藪椿」12-5)